

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	有
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしやげきだんかぜのこ 有限会社劇団風の子		
代表者職・氏名	代表取締役 大潤弘幸		
制作団体所在地	〒 192-0152		
	東京都八王子市美山町1320-1		
電話番号	042-652-1001	FAX番号	042-652-1013
ふりがな 公演団体名	げきだんかぜのこ 劇団風の子		
代表者職・氏名	代表取締役 大潤弘幸		
公演団体所在地	〒 192-0152		
	東京都八王子市美山町1320-1		
制作団体 設立年月	1950年 7月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 大潤弘幸 事務局長 岡本圭 制作部長 浅野井優子 創造部長 菅原武人	【団体構成員】俳優17名、制作11名、文芸・演出3名 【加入条件】 ・劇団風の子国際児童演劇研究所卒業及び一定の経験者 ・18歳以上の健康な方	
事務体制の担当	専任	本事業担当者名	吉野 由起
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	西川恵美子

制作団体沿革	<p>1950年7月、子どもの為の専門劇団として創立。以来『子どものいるとどここへでも』を合言葉に、全国を巡演。</p> <p>1983年より全国に地域劇団風の子を発足させる。劇団風の子北海道、劇団風の子中部、劇団風の子関西、劇団風の子九州がそれぞれ法人独立し、現在「有限会社劇団風の子」は首都圏を拠点に活動している。</p>			
学校等における公演実績	<p>【2020年度公演実績】</p> <p>●小学校公演:6作品91公演148ステージ (「スクラム☆ガッシン」55st、「ペコと秘密の樹」63st、「とんからり」3st、「風的一座」2st、「ソノヒカギリ美術館」5st、「ちえんじ図書室のすきまから」20st)</p> <p>●幼稚園・保育園、子ども劇場その他の公演:10作品244公演367ステージ (「スクラム☆ガッシン」2st、「とんからり」44st、「風の子バザール」40st、「風的一座」42st、「ないしょないしょのしっぽがぼん」86st、「ぞうのエルマー」34st、「まるさんかくしかく」23st、「ソノヒカギリ美術館」64st、「黄金の実」9st、「ポロロンシアター」23st)</p>			
特別支援学校における公演実績	<p>東京都立南大沢学園、岡山県新見市健康の森学園、宮崎県日南市くろしお支援学校、福島県会津若松市特別支援学校、広島県庄原市特別支援学校、埼玉県日高市特別支援学校、静岡県伊豆の国市東部特別支援学校、青森県青森市青森県立青森若葉養護学校、北海道黒松内町北海道余市養護学校しりべし学園分校、北海道札幌市手稲養護学校など</p>			
参考資料の有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	有	
		申請する演目のDVDまたはWEB公開資料	有	
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:		
	Aの提出が困難な場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料		
		※公開資料有の場合URL		
※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード		ID:		
	PW:			

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団風の子 】

対象	<input type="radio"/>	小学生(低学年)	-	中学生
	<input type="radio"/>	小学生(中学年)		
	<input type="radio"/>	小学生(高学年)		
企画名	みて、さわって、あそべる、ソノヒカギリ美術館OPEN!!			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「ソノヒカギリ美術館」 原案/村井昌世 作/ソノヒカギリ美術館製作委員会 構成・演出/大淵弘幸 美術/ナカムラジン 身体表現/若林こうじ 音楽/青柳拓次 制作/浅野井優子			公演時間(60 分)
著作権	<input type="radio"/>	制作団体が所有	制作団体以外が所有する事項が含まれる	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	ソノヒカギリ美術館は言葉の通りその日一日限りの美術館です。子どもたちが美術館を訪れるお客さんという設定で、ストーリーはありますが、子どもたちと俳優が創り上げるその日ならではのライブ感のある体験型演劇です。 【あらすじ】 ソノキニ・ナルさんとソノバ・シノギさんはソノヒカギリ美術館の学芸員です。毎日あちらこちらで一日限りの美術館を開催しているのですが、今日はこの小学校の体育館でソノヒカギリ美術館を開くことになりました。校長先生から依頼のお電話をいただいたのです。児童の皆さんがやってきました。あら大変、まだ準備中なのに！あわてて大きな箱を開けたり包みを解いたりする二人。そこに一人の子どもが迷い込んできました。名前はアキ。 アキは箱の上に乗ったり、包んであった大きな紙をガサガサしたり投げたりして遊び始め、ナルとシノギはちっとも仕事ははかどりません。展示された立派な美術作品さえもアキにとっては格好の遊び相手。ナルとシノギは何とか準備を進めようと思いますが、ついアキのペースに乗せられて二人も遊び始めてしまいます。 遊んでいるうちにシノギが額縁の中に閉じ込められて絵になってしまいました。アキとナルはどうしたらシノギを助け出すことができるでしょうか。ソノヒカギリ美術館は無事オープンできるのでしょうか！？			
演目選択理由	「遊び」と「芸術」は子どもが豊かに育つために必要不可欠のものです。ソノヒカギリ美術館はこの二つの言葉をキーワードに舞台とアートがコラボレーションした体験型演劇です。 美術館は静かに絵や彫刻を鑑賞する場所というイメージを持つ人が多いと思いますが、ソノヒカギリ美術館は子どもたちの声飛び交いとても賑やかです。絵に思い思いの題名を付けたリ、ピクトグラム(非常口等に使用されている絵文字)をモチーフにした作品と一緒に作ったリ、額縁を使った表現遊びなど、子どもたちの自由な想像力と創造力を引き出し、一人ひとりの発想を大事にし、違いを感じ認め合うことができる美術館なのです。 子どもたちが展示された美術作品と劇空間を楽しみ、そして自ら表現することも楽しみながら、お互いの存在そのものが唯一無二のアートであることを、理屈ではなく体感し共有することを願っています。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	①作品作り ワークショップで制作した児童の作品を舞台美術として展示させていただきます。公演の中盤で学芸員のシノギが額縁の中に閉じ込められ出られなくなってしまい、どうしたら出られるのか「絵に聞いてみる」場面で、俳優がその作品と会話をします。シノギが額縁から出られるヒントを子どもたちの作品が教えてくれるという設定で、その作品ならではの会話を俳優は即興で考えます。 ②ピクトグラムで絵を作る 公演の中盤でピクトグラム(非常口等に使用されている絵文字)を使って子どもたちに絵を作っていただきます。マグネットシートを切り出して作った色どりの様々な形のピクトグラムを用意しますので、ソーシャルディスタンスを保ちながら、それぞれ気に入ったものを選んでみんなで一枚のパネルに貼っていただきます。単純な形のピクトグラムがたくさん集まると思いがけない楽しい絵が出来上がります。担任の先生や校長先生に即興でタイトルを付けていただき出来上がりです。これも展示作品として飾ります。 ③身体で表現(額縁を使った切り取りアート) 公演の後半で大きな額縁を使って子どもたちに一枚の絵になっていただきます。密を避けるため4〜5人ずつのグループに分かれ、額縁で切り取られた空間の中で、それぞれがタイトルやキーワードからイメージして身体や顔の表情で表現をする演劇的遊びです。 劇中で、シノギが展示するはずの絵を忘れてきてしまいとても落ち込みます。子どものアキは空っぽの額縁でその姿を切り取り、「しょんぼりシノギ」とタイトルをつけ絵にして面白がります。これを額縁を使った表現遊びに発展させて、演じる子どもたちも見る子どもたちも楽しみます。 ④ソノヒカギリ美術館の鑑賞 公演の最後にいよいよソノヒカギリ美術館がオープンします。学年毎に作品を間近でゆっくり鑑賞しながら退場、出口にはピクトグラムと大きなパネルを新たに用意しておきますので、自由に遊んでから教室に戻ってください。 (別添えあり)			
出演者	菅原武人・宮澤衣路・藤本秀男(予定)			
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 3 名 スタッフ: 1 名 合計: 4 名	機材等 運搬方法	積載量: 1 t 車長: 4.69 m 台数: 2 台	

【公演団体名 **劇団風の子** 】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み		無	会場設営の所要時間		2時間30分 程度
	到着	仕込み/ワークショップと ハーサル	本公演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～10時30分/ 10時30分～11時15分/ 11時20分～12時5分	13時30分～14時30分	0分	14時30分～16時	16時10分
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ		①作品作り 20人 ③身体で表現 20人 (全校生徒の人数による。少なければ、全員も可能)			
	本公演		①作品作り 20人 ②ピクトグラムで絵を作る 20人 ③身体で表現 20人 ④ソノヒカギリ美術館の鑑賞 全員 (最大観客数150人)			
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>事前に各学校に作品資料とワークショップの内容と目的、準備していただくもの等の明細をお送りします。各学校で参加学年を決めていただきます。</p> <p>①舞台美術として展示する作品を作ります。身近な素材(葉っぱや枝、石ころ、新聞紙やチラシ、ダンボールなど)を使い、一人ひとりの作品は簡単に単純な造形にして、それを並べたり重ねたりすることで全員の合同作品として力のある作品に仕上げます。</p> <p>③身体や顔の体操、表現遊びをし、次第に心も身体も開放していきます。その後グループに分かれて、額縁を使って切り取られた空間の中で絵になる表現をします。タイトルやキーワードからイメージした一人ひとりの発想と表現を大事にします。</p> <p>(②と④は、参加のみで事前のワークショップはありません)</p>					
ワークショップ 実施形態の意図	<p>ドラマの内容を観客も出演者も一緒にハラハラしたり応援したり、喜びを共有したりすることが、生の舞台の醍醐味です。今回は特に、子どもたちが作る作品や表現が本番の中で重要な役割を担っています。一人ひとりの表現が他者の表現とつながり、重なり、呼応して、それが芝居の中で生きる喜びを体感してほしいと願っています。</p>					
特別支援学校での 実施における工夫点	<p>①学校に子どもたちが作った作品があれば、それを工夫して展示させていただきます。</p> <p>②本番ではパネルとピクトグラムを客席の中に持っていき、先生に協力していただいてその場で貼りつけることができます。</p> <p>③こちらから額縁を客席に運び、その場で身体を動かすなど、それぞれの可能な表現の仕方できり取りアートを皆で共有して楽しんでほしいです。</p> <p>④なるべく作品を近くで見ながら退場できるよう、先生方に協力していただきます。</p>					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

リンク先	No.2	【公演団体名	劇団風の子 】
------	------	--------	------------

<作品作りワークショップの様子>



←段ボールを中心に作品作り

一人ひとりの作品をみんな
で共有しているところ ⇒



<表現ワークショップの様子>
タイトル「時計 9時20分」



公演の様子



<本公演での参加場面>
額縁の切り取りアート
(身体表現ワークショップ参加児童対象)





劇団 風の子

文化庁 令和3年度文化芸術による子供育成総合事業採択



美

ソノヒカギリ美術館

原案/村井昌世 作/ソノヒカギリ美術館製作委員会 構成・演出/大淵弘幸
美術/ナカムラジン 身体表現/若林こうじ 音楽/青柳拓次 制作/浅野井優子 制作助手/森恭次郎



劇団風の子の活動

劇団風の子は、まだ戦後の焼野原が残る東京世田谷で、子ども会や子ども文庫の活動をしていた多田徹を中心とする若者たちによって、1950年に始められました。

「日本の未来を考えることは、これからの日本の子どものことを考えること」を劇団の理念とし、以来、約70年、「子どものいるとこどこへでも」を合言葉に、北海道から沖縄まで、全国で公演を続けています。

また、1970年代からは、ドイツ、カナダ、中近東、東南アジア、アフリカ、アメリカ、ロシア、韓国、中国など海外での公演も積極的に行なっており、国際的な文化交流の輪も年々ひろがってきています。

劇団風の子は、これからも子どもの目の高さから新しい創造に挑み続け、視野を世界に広げ、子どもの育つ地域に目を向け、先生方や子どもをとりまくおとなたちと連携し、子どもたちの心の中にとびこんでいきたいと思っています。

主な受賞作品

- 「小さい劇場」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「世界をまわるトランク劇場」児童福祉文化賞
- 「宝のつるはし」都児童演劇祭優秀賞・児童福祉文化奨励賞
- 「子ワンの星」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「突然の陽ざし」都優秀児童演劇選定優秀賞・文化庁優秀舞台芸術奨励公演
- 「風の子パズール」都優秀児童演劇選定優秀賞・中央児童福祉審議会特別推薦
- 「カレドニア号出帆す」都優秀児童演劇選定優秀賞・NHK脚本賞
- 「うそんこほんこ」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「お祭りどんぶり」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「ぼくたちの南十字星」都優秀児童演劇選定優秀賞・中央児童福祉審議会特別推薦
- 「ギャギャとムツツのたんじょうび」中央児童福祉審議会特別推薦
- 「おれがあいつであいつがおれで」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「おはなしちんどん」社会保障審議会特別推薦・児童福祉文化賞推薦
- 「マンナム」社会保障審議会特別推薦・児童福祉文化賞推薦

ソノヒカギリ美術館

あらすじ

ソノキニ・ナールさんとソノバ・シノギさんはソノヒカギリ美術館の学芸員です。毎日あちらこちらで一日限りの美術館を開催しているのですが、今日はこの小学校の体育館でソノヒカギリ美術館を開くことになりました。校長先生から依頼のお電話をいただいたのです。

児童の皆さんがやってきました。あら大変、まだ準備中なのに！あわてて大きな箱を開いたり包みを解いたりする二人。そこに一人の子供が迷い込んできました。名前はアキ。

アキは箱の上に乗ったり、包んであった大きな紙をガサガサしたり放り投げたりして遊び始め、ナールとシノギはちっとも仕事はかどりません。展示された立派な美術作品さえもアキにとっては格好の遊び相手。ナールとシノギは何とか準備を進めようと思いますが、ついアキのペースに乗せられて二人も遊び始めてしまいます。

遊んでいるうちにシノギが額縁の中に閉じ込められて絵になってしまいました。アキとナールはどうしたらシノギを助け出すことができるでしょうか。ソノヒカギリ美術館は無事オープンできるのでしょうか！？

はじめての美術館

自分の記憶の中にある最初的美術と言われるものは何か問われたら、私はアントニオ・ガウディの建築と答えると思います。石なのにもすごく柔らかなものを感じ、大昔からやってきたのか、遠い未来からやってきたのか。映像ですがひとめで心をわしづかみにされました。いつの日かじかにこの目で見てみたい、それは今も持ち続けている夢です。美術や音楽、演劇には人をとりこにする力があると信じています。

ソノヒカギリ美術館は美術展示だけではなく、子どもたちの創作の時間もあります。音楽を奏でる時間もあります。物語を感じる時間もあります。それらをすべてあわせると演劇になります。

この劇を観た子どもたちが自分で思ったこと、感じたことを表現したいと思ってもらったら、とてもうれしいことです。

構成演出 大洞弘幸



舞台とアートのコラボレーション

「遊び」と「芸術」は子どもが豊かに育つために必要不可欠のものです。ソノヒカギリ美術館はこの二つの言葉をキーワードに舞台とアートがコラボレーションした体験型演劇です。

美術館は静かに絵や彫刻を鑑賞する場所というイメージを持つ人が多いと思いますが、ソノヒカギリ美術館は子どもたちの声飛び交いととも賑やかです。絵に思い思いの題名を付けたり、ピクトグラム(非常口等に使用されている絵文字)をモチーフにした作品と一緒に作ったり、額縁を使った表現遊びなど、子どもたちの自由な想像力と創造力を引き出し、一人ひとりの発想を大事にし、違いを感じ認め合うことができる美術館なのです。

子どもたちが展示された美術作品と劇空間を楽しみ、そして自ら表現することも楽しみながら、お互いの存在そのものが唯一無二のアートであることを、理屈ではなく体感し共有することを願っています。

制作 浅野井優子

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	K136	分野	演劇	種目	児童劇	ブロック	A/C	区分	C区分
公演団体名	[C区分]劇団風の子				制作団体名	有限会社 劇団風の子			

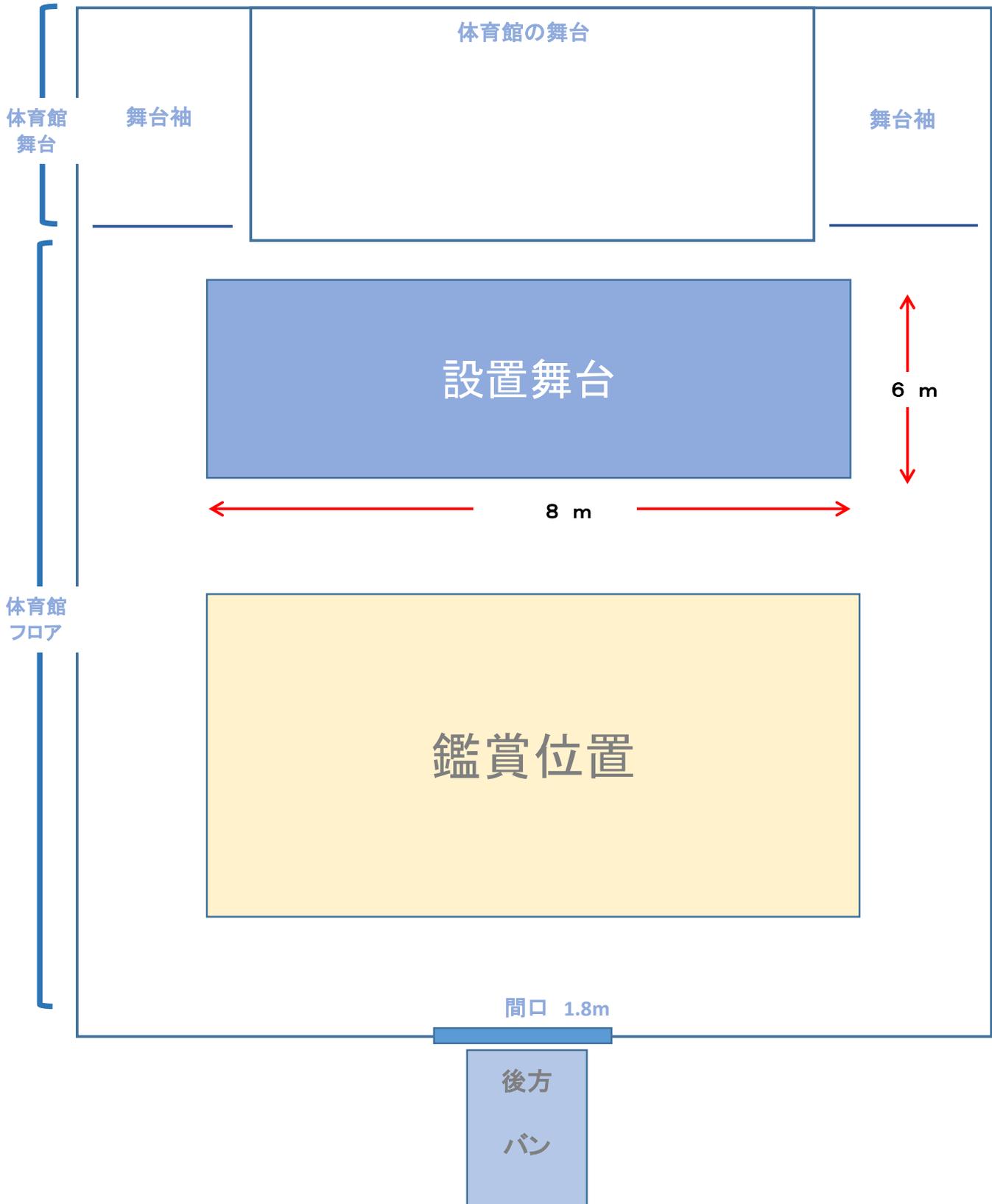
① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談	
控室について	必要数 *	1室	条件		廊下や外から見えないようカーテンがあることが望ましい。体育館内でまかなうことも可。			可	
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *		バン	2台				不可	
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細							/	
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ		バン(長さ469cm,幅169cm,高さ198cm)						不可
	搬入車両の横づけの要否 *		要					可	
	横づけができない場合の搬入可能距離 *		10m以内					可	
	搬入経路の最低条件		・入口、経路、階段とも幅1.8m以上が望ましい。 ・屋根のある経路が望ましい。					可	
	理由		舞台大道具の搬入をするため					/	
	設置階の制限 *		問わない						可
	搬入間口について 単位:メートル		幅	1.8m	高さ	2.2m		可	
WSについて	参加可能人数	①(作品づくり)最大20人/③(表現ワークショップ)最大20人						可	
	学年の指定の有無 *	なし	指定学年 *				可		
	所要時間の目安 単位:分	90分(45分×2)						可	
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間		※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。					/	
	鑑賞可能人数		150人						可
	舞台設置場所 *		フロア					可	
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル		幅	8m	奥行	6m	高さ	指定なし	可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *		不要					—
		舞台袖スペースの条件 *							—
		緞帳 *	不要		バトン *	不要		—	
	遮光(暗幕等)の要否 *		要	理由	直射日光が入る部分は閉める			可	
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *		不要		※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。			—
		ピアノの事前調律 *		不要					—
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況 *		格納されていれば可				—	
	公演に必要な電源容量		40A	※主幹電源の必要容量				可	
その他特記事項							応相談		

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	1.8m	高さ	2.2m
搬入車両の横づけの可否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		10m以内		

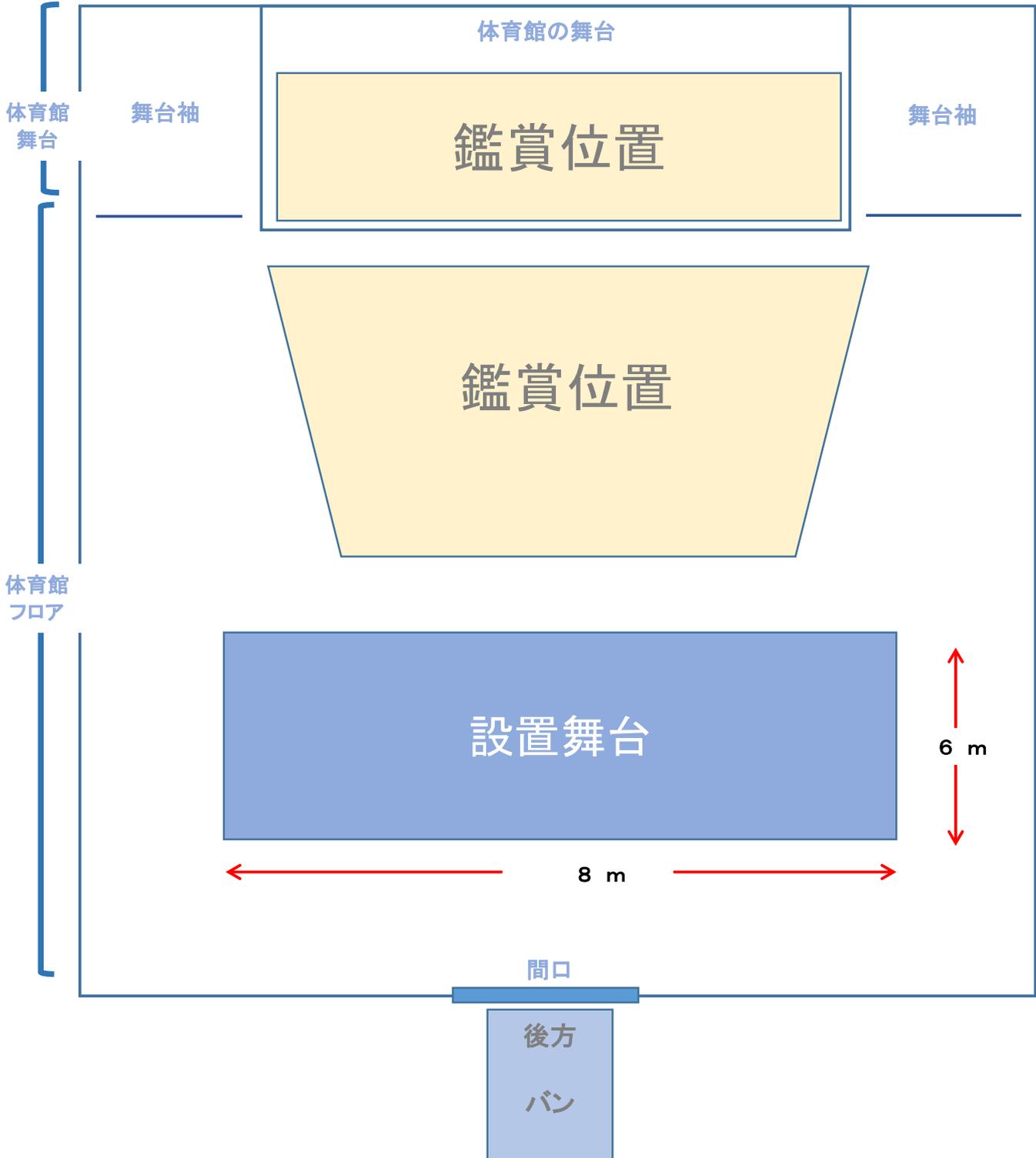
※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	1.8m	高さ	2.2m
搬入車両の横づけの要否		要		
横づけができない場合の搬入可能距離		10m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



舞台を客席として使用する場合